

# 石小っ子の教育

河内長野市立石仏小学校

## 全国学力・学習状況調査、すくすくテストからみた 石小っ子

4月に行われた全国学力・学習状況調査とすくすくテストの結果について学校全体の概要をまとめました。結果をもとに、本校の児童の傾向を考察しました。この結果をもとにして、本校の子どもたちの実態を把握し、今後の効果的な指導のあり方につなげて、取り組んでいきたいと考えております。

### Ⅰ. 学力調査の概要

#### 【国語】

##### 概要

- ・平均正答率は、大阪府の平均、全国の平均とほぼ同じような数値であった。
- ・後半の問題にかけては無解答率が上がる傾向にあった。

##### 特に成果が見られた問題例

- ・メモ(図)を活用した問題は、選択・記述ともに大阪府と全国の正答率を上回った。メモに書き表したポイントを理解し、特徴を見つけることができていた。
- ・主語と述語の関係を理解し、選択していた。

##### 特に課題が見られた問題例

- ・資料の活用をして考えが伝わるように表現を工夫する問いでは、選択式の問題にも関わらず30%ほどの正答率であった。条件付きの記述式問題については、特に無解答率が高く、自分の考えを条件に合わせて書くことに課題が見られた。

#### 【算数】

##### 概要

全体の結果としては、大阪府・全国の平均正答率とほぼ同じ数値であった。『数と計算』の領域では、「数量の関係を捉え式に表すことができる」や「除数と商の大きさの関係を理解している」等の知識を問う問題についての正答率は高く、大阪府・全国を上回るポイントであった。子どもたちが苦手とする問題に焦点を当ててみると、『思考・判断・表現』を記述で問われる問題である。式と答えだけでなく、答えを導くためにどのように考えたかを記述する問題の正答率は低く、無解答率も高い結果となっている。

##### 特に成果が見られた問題例

- ・直方体の見取り図をかく問題や、円グラフから割合を読み取る問題の正答率は約90%と非常に高く、無解答率も0%である。

##### 特に課題が見られた問題例

- ・「直径22cmのボールがぴったり入る箱(立方体)の体積を求める式をかく」問題では、正答率が低く無解答率が高い結果となっている。球の直径や立方体の体積の求め方等の理解が不十分だという課題がみられる。
- ・速さの問題では、数字に惑わされて数の多い方を選択しているため、正答率は低い一方で記述の無解答率は0%であった。

### Ⅱ. すくすくテストの概要

#### 【国語】

##### 概要

平均正答率を見ると、大阪府の平均を下回る項目が多い結果となった。特に、我が国の言語文化に関する事項では大きく下回った。

##### 特に成果が見られた問題例

- ・文中における主語と述語の関係を理解し、述語部分を正しく書く問いでは、府の平均を14.8ポイント上回った。また、同様に文末を適切に書き直して文を整える問いも正答率が高く、良く理解できていた。
- ・日常使うローマ字を正しく読む問いは正答率が80%以上で、日ごろのタイピングなどの継続で力がついていると考えられる。

##### 特に課題が見られた問題例

- ・故事成語の意味を正しく理解する問いに課題が見られた。
- ・指示語の指示内容を捉えたり、情報と情報の関係を理解して文の内容を捉える問いは、府の平均を大きく下回った。また、比較的簡単に思われる、反対の意味を表す言葉についての正答率が低いことから、問題の読み取りについても課題があると考ええる。

#### 【算数】

##### 概要

- ・全体の結果でみると、大阪府の平均正答率と同じポイントであった。各領域でみると、「データの活用」においては大阪府の平均正答率を下回る結果となった。ただ、他の領域「数と計算」「図形」「測定/変化と関係」で大阪府の平均を上回る結果となっている。
- ・記述式の問題で無解答率が高かった。

##### 特に成果が見られた問題例

- ・複合図形の面積の求め方の問題では、大阪府の正答率を7ポイント上回っており、2つの数量の関係を読み取り、記号を用いてその関係を式に表す問題では、大阪府の正答率を5ポイント上回った。

##### 特に課題が見られた問題例

- ・複合グラフを読み取るとき、両縦軸のどちらを読み取ればいいのか判断できず、大阪府の正答率を下回った。問題を見てみると、2人の児童の会話(※プールの利用者と最高気温について)に穴あき問題があり、読解力も重要になってくる問題である。
- ・ある量の何倍かを表す問題では、大阪府の正答率を下回った。

#### 【理科】

##### 概要

- ・大阪府の平均正答率より3ポイント上回った。

##### 特に成果が見られた問題例

- ・実験道具の使い方や結果からわかることについて十分に理解している。
- ・振り子の周期や実験の条件についてよく理解し、大阪府平均より24ポイントも上回っていた。

##### 特に課題が見られた問題例

- ・太陽の沈む方角や水の性質の理解に課題が見られた。

#### 【わくわく問題】

##### 概要

- ・わくわく問題は、資料をもとに問題が問われ、記号や記述で解答する問題が多い。図や表、グラフ等の内容を関連付けて正しくとらえる必要がある。

・大阪府の平均正答率より少し下回った。

### **特に成果が見られた問題例**

・食に関する問題について、伝えたいことを文章で具体的に書いたり、絵や言葉を使って工夫して記入したりすることができていた。

・複数ある資料の読み取りと、それに基づいた思考を問う内容も、正答率が高く、成果がでていた。

### **特に課題が見られた問題例**

・文章を読んで視覚的なイメージをとらえる問題に課題があった。

・物事を頭の中で整理をして、複数の資料を読み取り、論理的に考える問題の正答率が低かった。

## **3. 調査結果を受けて**

### **(1) 学校が重点的に取り組んでいくこと**

- ・教材から読み取ったことや、そこから考えたことを条件に合わせて文章にまとめる学習活動を引き続き取り入れていきます。
- ・漢字や言葉の習得を図るとともに、学んだことを、他教科の学習でも活かせるように、伝え合う活動にも積極的に取り組んでいきます。
- ・課題から予想をたて、実験結果からわかる考察など、自分で考えて書く活動を引き続き取り入れていきます。
- ・文章問題の中でたくさんの情報量进行处理するということに課題があります。問題のなかでの大切などところやキーワードを見つける力を身につけるために、文章問題への取り組みに力を入れていきます。
- ・生活に役立つように、関連付けた取り組みをし、子どもたち自身が必要性を感じられるように、問題作りを工夫します。
- ・日々の授業の中で、具体物を取り入れたり、実際に触ったり操作したりして課題解決に向かっていくことが大切です。また、自分の考えを筋道立てて説明したり、記述したりすることも重要だと考えます。そして何より、子どもたちが「楽しい!」と感じる授業づくりに取り組んでいきます。

### **(2) 児童のみなさんに取り組んでほしいこと**

- ・分からない言葉があったり、不思議だなど思うようなことがあるときには、そのままにしないで、質問したり、自分で調べてみましょう。
- ・学校の授業で学習したことを日常生活に結び付け、疑問や興味をもつようにしましょう。
- ・漢字の練習に丁寧に取り組みましょう。今までに習った漢字も自主的にくり返し練習をして、確実に身につけましょう。
- ・自分の考えや感想など、文章を書いた後は、読み直しをしましょう。読む人にわかりやすい文章になっているか、言葉が正しく使えているかを見直しましょう。
- ・自主勉強に積極的に取り組みましょう。
- ・算数の答えは一つですが、答えにたどり着く方法は一つだけとは限りません。式や図、グラフ等、何を使用してもいいので、あきらめずに考えることに取り組みましょう。

### **(3) 保護者のみなさまに協力していただきたいこと**

- ・間違いやわからないところはそのままにせず、自分で調べたり、先生に聞いたりするように声をかけをお願いします。
- ・ご家庭で本に触れる機会を増やしていただけるとありがたいです。
- ・算数ではその日に学習したことを定着させるために、同じ単元の宿題を出すようにしています。躓

いていないか、理解しているかなど低学年のうちから確認してください。

- ・小さな言動も、たくさんほめてあげてください。保護者からほめられたり認めてもらえたりしたことは、とてもうれしいです。それが子どもたちの自尊感情や、「やってみよう!」という前向きな言動のエネルギーとなります。

## **4. 児童質問紙について結果からの考察**

### **① 自尊感情**

「人の役に立つ人間になりたいと思う」と答えた児童は 97.1% (府 95) 「自分にはよいところがあると思う」は 90.2% (府 87.1) 「将来の夢や目標を持っている」は 82.3% (府 81.8) 「先生はあなたのよいところを認めてくれている」は 94.4% (府 91.7) でした。学校では、授業中や休み時間はもちろんのこと、クラブ活動や委員会、たてわり活動も含めた学校生活全般を通じて、全職員で子どもたちを見つめ、励まし、ほめていこうと取り組んでいます。一方、「難しいことがあってもあきらめない」は 63.4% (府 65.9) 「何事にも一生懸命努力する」は 67.7% (府 72.4) と府より低い値でした。あきらめずに頑張る事の大切さを伝える必要があると感じています。今後いろいろな角度からその子のよさやがんばりを見つけ、子ども達に伝えていきたいと考えています。ご家庭とも協力しながら、もっと子どもたちの自尊感情を高めていけたらと思います。

### **② 学校生活**

「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」は 67.7% (府 71.9 全 67.1) で、「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる」は 97.1% (府 88.3 全 87.9) でした。困りごとや不安がある時、勉強でわからない事がある時は一人で悩まず相談してほしいです。「自分と違う意見について考えるのは楽しい」は 82.3% (府 73 全 75.8) 「算数の問題が解けた時、別の解き方を考える」は 73.5% (府 63.3 全 63.6) 「分からない事や詳しく知りたい事があった時に、自分で学び方を考え、工夫することができる」は 91.2% (府 79.4 全 80.7) でした。様々な考え方で試そうとする事はどの教科においても大切なことです。また、「授業で、コンピューターやタブレットを使って、自分の考えを書きこんだり、友だちと意見を交換したりする」や「授業でコンピューターやタブレットを使って調べる」では府平均よりも多くの時間、ICTを活用できています。今後もICTを積極的に活用し、様々な学習場面で互いの立場や意図を意識して話し合う学習を今後も積極的に取り入れていきます。

### **③ 生活習慣**

「朝食を毎日食べている」と答えた児童は 85.3% (府 81.2 全 83.4) でした。朝食は一日を活動的にいきいきと過ごすための大事なスイッチと言われています。「毎日同じくらいの時刻に起きている」は 91.1% (府 90.8 全 91.6) 「家の中にホッとできる場所がある」は 95.8% (府 93.6) でした。これらはご家庭の協力があることだと感謝しています。規則正しい生活をおくり、家が安心できる場所であることにより、子どもたちは落ち着いて学習することができます。一方「スマホやコンピューターの使い方について、家の人と約束した事を守る」は 53% (府 72.2 全 71.1) とかなり低い値でした。学校でも情報モラルの学習は継続していきませんが、ご家庭でも再度約束を確認していただけたらと思います。今後も学校では「はやね・はやおき・あさごはん」を指導し、よい習慣を続けていけるよう取り組んでいきたいと思っています。引き続きご協力よろしく申し上げます。